



那賀の鹿島神社

【那賀・鹿島神社の歴史】

那賀地区に鎮座する鹿島神社は、鎌倉時代の延応元(1239)年、この地の豪族である那賀太郎藤原道資が鹿島大神を崇拜し、那賀城の東方に建立したことが始まりと伝えられています。南北朝時代に入ると、南朝方の武士・那珂通辰一族の氏神として祭祀されました。鹿島市の鹿島神宮に主神として祀られている、「武甕槌神」を祭神としています。

鹿島神社では20枚の棟札が確認されており、一番古いものは文明6(1474)年9月8日に奉納されています。この棟札には、社殿造営の出資者として「源義照能登入道常泰」と「石川計主助光尚」の名が記されています。

本殿には、江戸時代に行われた社殿の大造営によって見事な彫刻が施されました。これは、日光東照宮の造営に携わった彫師の作であると言われています。鹿島神社は、明治15(1882)年に旧那賀村の村社となり、本殿は昭和56(1981)年3月25日、旧緒川村の時代から文化財に指定されています。

※詳しい歴史については、神門に掲示がございます。

是非ご覧になってください！



▲本殿の見事な彫刻

【大切に保管されていた文化財たち】

令和3年6月24日、那賀区長さんの立ち会いのもと、拝殿内の調査を実施しました。拝殿には立派な絵馬などが飾られており、寛政4(1792)年の絵馬や扁額など計10点、嘉永5(1852)年の奉納札など計7点が、常陸大宮市歴史民俗資料館に寄贈されました。その他にも、江戸時代に祈願祭を行った際の諸経費が記録されている帳簿や、昭和20(1945)年頃の青年会誌など、1,000点近くの古文書類が確認されています。

【新たな神門の建設】

このように古くからの資料が数多く残る鹿島神社ですが、昨年の10月に拝殿を取り壊し、11月には新たな神門の建築工事が行われました。この歴史に残る大事業は、地域の方々がこの神社を愛し、後世まで立派に伝わるようにという熱心な支援の賜です。



◀ 拝殿



▶ 地域の方々のご尽力により、新たに建てられた神門

12月4日には神門の竣工祈願祭が行われ、地域の多くの方々が参加しました。祈願祭が終わった後には、神社の境内で「弥七太鼓」の演奏が披露され、会場が大いに盛り上がりました。



▲大勢の方々が参加した竣工祈願祭

神門新設を記念して、3月1日から新たに御朱印が取り扱われます。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきた際には、地域の方々に愛されたこの神社を是非訪れてみてください！

【謝辞】この度の調査にあたっては、区長の長山豊明様に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

【参考文献】緒川村史編さん委員会『緒川村史』緒川村、1982年。緒川村文化財保護審議員『神社棟札調査書』緒川村教育委員会、1989年。常陸大宮市文書館『常陸大宮の棟札1』常陸大宮市教育委員会、2018年。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111(内線344)